



## 平成22年度スタートにあたって

～正しい実践、普及と魅力ある会活動にしよう～

滋賀県倫理法人会 会長 中村 治雄



今年は異常気象となり、いつしか仲秋の候となりました。会員の皆様には、お変わりなく御隆昌のこととお慶び申し上げます。日頃は当会に対し、ご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度は早々に世界同時不況になり、我々中小企業はもとより、あらゆる企業が疲弊するに至りました。その為、各単会においても組織が弱体化し、十分な会活動や普及活動ができ

ず、去る8月6日の10周年記念式典において520社を達成することが出来なかったことは、誠に申し訳なく、残念なことでありました。今年度も9月1日よりスタート致しましたが、改めて組織の充実を図り、純粋倫理の学びを深め、実践体感することが重要と考えます。

今日本は、政治も経済も教育に至るまで、また世情も混迷の度を深めており、抜本的な建て直しを図らなければ、この国の未来はないと言わざるを得ません。一人一人が良識を取り戻し、道義を求められていると思います。

「今こそ倫理を」家庭に、企業に、社会に伝えていくことが、我々の使命であると思います。私達の倫理活動に「参加して良かった」「入会して良かった」と言われるような、魅力ある会活動により、中小企業が活性化し、ひいては「日本創成」に貢献出来ればと願う次第です。

皆様の尚一層のご努力、ご協力を切にお願い申し上げます。



滋賀県倫理法人会のホームページを開設しました。

URL:<http://www.shiga-rinri.com>

## 「滋賀県倫理法人会10周年記念式典」



浅野県副会長による開式の辞

松田相談役による乾杯

初代県会長・目片大津市長による挨拶

藤井参与による祝辞

西田相談役による功労者挨拶

中嶋びわこ湖南会長による閉式の辞

## 「10周年記念講演会」

今回の内田部長の講話は、100年に一度と言われる不況の中で迎えた滋賀県倫理法人会の講演に最もふさわしい内容でした。今の自社の置かれた状況をそのまま受け切り、そのなかでいかに努力して現状を打破するかという事をあらためて認識できました。

ではどうするのか？現在の状況を「無風状態の風揚げ」にたとえた、日本電産の永守社長は「自分で走ればいい」と結論し、上半期過去最高の利益を出しました。ユニクロしかり。自分たちの足元をしっかりと見据え、なにを売りにするのか、目的意識を強固にして信念をもってそれに傾注する。社長自らが行動する。そして自分以外のものに感謝する謙虚さ、そうした「純情」な気持ちでいると良い出会いやチャンスにも恵まれるようになる。日々の実践が大きくなるとなり社員を動かし、全社でベクトルを合わせてこの不況を乗り切ることができる。逃げてはいけない、正面から立ち向かう勇気を持ちなさいということでした。

びわこ湖北倫理法人会 会長 草川 公雄



## 「滋賀県倫理法人会10周年経過報告」

滋賀県倫理法人会 幹事長 新庄 昇



滋賀県と倫理の接点は、昭和56年に京都府倫理法人会が設立された時に、県内の10社程が京都府倫理法人会の滋賀ブロック会員として加入させていただいたのが始まりです。その当時はモーニングセミナー、経営者の集い、幹部研修、役員会等にはすべて京都の方へ参加させていただいたそうです。

その後、滋賀県にも倫理法人会を設立したいとの思いで、進めてまいりましたが、なかなか設立に至らぬまま経過しました。年号が変わった平成4年頃から京都府倫理法人会の藤井祖夫先生が滋賀の思いを受け取っていただき長きに亘り、再三滋賀県までお越しになり、目片信初代会長と共に普及にご尽力いただきました。おかげを持ちまして、県内会員も徐々に増えていきました。そこでようやく法人会設立の目途が立ち、目片信会長の下、平成7年9月2日に滋賀県準倫理法人会として開設を見ることができました。

そのスタート時は60社程の会員で、モーニングセミナーも隔週開催でいつもは4~5人、多い時で10人位の出席で、少ない時には2人という時もあったそうです。

しばらくは、そのような低調な状態で推移しておりましたが、やっと平成11年2月に106社をもって正倫理法人会に昇格になりました。それを機会に彦根にも新しく開設する機運が高まり、平成11年11月には二法人会体制として確立されました。

新たに事務局を置くことにより、さらに活性化が計られ、平成16年6月にはびわこ湖南準倫理法人会の開設、翌年17年8月には正として昇格、翌18年8月びわこ湖東準倫理法人会が開設され、これも翌19年6月正に昇格、同年8月にはびわこ湖北準倫理法人会開設、翌20年7月には正に昇格と滋賀県内に着々と分封することができました。

そこで滋賀県長年の課題であった500社超え、520社を滋賀県設立10周年の記念すべき年として、今年度の目標に掲げ、何としても達成させる思いと、各単会の現状、資格割れを解消すべく、河村益孝普及拡大委員長を中心に活動を開始いたしました。まずは3月から始まる、各単会の倫理経営講演会を普及活動の柱として、未会員へのお誘いを含め活動、しかし終了後も未会員への詰めが遅々として進まず、時は流れて行きました。

そんな中、西日本エリア会、会長・幹事長・普及拡大委員長会、また次年度方針説明会など、他府県の取り組みや、役員の方の倫理に対する思いに刺激を受けて、目標に向けてやり切る覚悟が出来ました。

その後普及拡大委員会による「普及ニュース」の発行や、他府県で学んだ「モーニングリスト」も早速取り入れ、各役員への情報提供、共有化もやり始めました。また普及の基本として「モーニングセミナー」を活性化させるべく、役員朝礼の実施、「50人、100人モーニングセミナー」へのチャレンジ等、積極的な単会も出てきました。この新たな動きを全県での取り組みとして、今後も継続発展していきたいと思っています。

平成22年度 法人局スローガン

**日本創生 やるぞ10万** **自分がやらずに誰がやる**  
**今こそチャンスだ**

# 第1回女性セミナー 「祈りは飴（こだま）」を聴いて



滋賀県倫理法人会・女性委員会主催  
第1回女性セミナー「祈りは飴（こだま）」を聴いて  
講師：安楽寺・普照房 慈弘 氏

滋賀県女性委員会・委員長 山田 綾乃

今、家庭では親子・兄弟が声をかけ合うことが少なくなっている。テレビやビデオ、パソコンに気をとられ、話をするのが少なくなっている。今日、勇気を持って、また母親は自信を持って家族に声をかけて欲しい。家の中で明るく声をかけ合って生きる事が、社会に出た時、自分を大きく育て楽しい人生を送ることにつながると思う。言霊はエネルギーとなって、人々に喜びと希望を与えます。

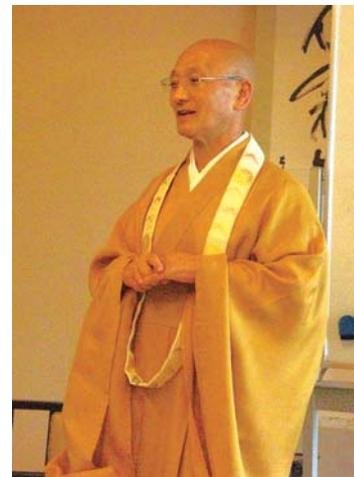
今こそ世のため人のため、家族のため、我が子供達のため、夫の会社のために、女性らしく、母親らしく、妻としてどう生きるべきかを問われている時だと思います。家庭の太陽である女性が、明朗・愛和・喜働の精神で毎日を過ごすことで日本を救うのです。

倫理経営が、我が自身の清く正しい教育になり、それを進めることこそ家庭天国であり、日本創生への道だと、と思います。

今回のセミナーは、皆様の熱意により明日に羽ばたく女性が、世のため人のため、家族のため、我が子のために生きる事の喜びを感じ、夫を支え、我が会社のため、少しでも間に合う人生を送ることを感じ実行することを心に誓った、大切なひと時でした。日本創生に向けて私達女性は、明るい気持ちで勇気ある実践を地域社会のために頑張ります。



講師を囲んでの楽しい懇親会



安楽寺・普照房 慈弘 氏